

山田 朗（やまだ・あきら）経歴書

2006（平成 18）年 5 月 8 日現在

- 1956（昭和 31）年 12 月 15 日 大阪府豊中生まれ
1979（昭和 54）年 3 月 愛知教育大学教育学部卒業
1982（昭和 57）年 3 月 東京都立大学大学院人文科学研究科史学専攻修士課程修了
1985（昭和 60）年 3 月 東京都立大学大学院人文科学研究科史学専攻博士課程退学
1985（昭和 60）年 4 月 東京都立大学人文学部助手
1994（平成 6）年 4 月 明治大学文学部助教授
1999（平成 11）年 4 月 明治大学文学部教授（現在に至る）

専攻：日本近現代政治史・軍事史・歴史教育論

所属学会：日本歴史学協会・歴史学研究会・日本史研究会・軍事史学会・戦略研究学会・
歴史科学協議会・東京歴史科学研究会・大阪歴史科学協議会・歴史教育者協議会・駿台
史学会（明治大学）・史学会（東京大学）・史学会（東京学芸大学）・メトロポリタン史学
会（首都大学東京）

学位：博士（史学）

山田朗業績書（発表形態別・発表順）

2006（平成18）年5月8日現在

【単著】

- (1) 『昭和天皇の戦争指導』（昭和出版、1990年）
- (2) 『大元帥・昭和天皇』（新日本出版社、1994年）
- (3) 『軍備拡張の近代史—日本軍の膨張と崩壊—』（吉川弘文館、1997年）
- (4) 『歴史修正主義の克服』（高文研、2001年）
- (5) 『昭和天皇の軍事思想と戦略』（校倉書房、2002年）
- (6) 『護憲派のための軍事入門』（花伝社、2005年）

【編著】（単独編著）

- (1) 『外交資料・近代日本の膨張と侵略』（新日本出版社、1997年）
- (2) 『ものから見る日本史 戦争Ⅱ〈近代戦争の兵器と思想動員〉』（青木書店、2006年）

【編著】（共編著）

- (1) 『ドキュメント真珠湾の日』（大月書店、1991年）
- (2) 『新視点・日本の歴史』第7巻〈現代編〉（新人物往来社、1993年）
- (3) 『日本20世紀館』（小学館、1999年）
- (4) 『陸軍登戸研究所—隠蔽された謀略秘密兵器開発—』（青木書店、2003年）
- (5) 『講座・戦争と現代』全5巻（大月書店、2003-04年）
- (6) 『大本営陸軍部上奏関係資料』（現代史料出版、2005年）

【共著】

- (1) 『徹底検証・昭和天皇「独白録」』（大月書店、1991年）
- (2) 『遅すぎた聖断』（昭和出版、1991年）
- (3) 『キーワード日本の戦争犯罪』（雄山閣、1995年）
- (4) 『君たちは戦争で死ぬるか—小林よしのり『戦争論』批判—』（大月書店、1999年）
- (5) 高等学校検定教科書『日本史B』（東京書籍、2003年）

【論文】

- (1) 「幸徳秋水の帝国主義認識とイギリス『ニューラディカリズム』、『日本史研究』第265号、1984年9月号、37～60頁。
- (2) 「帝国主義と軍事力編成—国家総力戦型軍事力編成を中心に—、『歴史評論』第422号、1985年6月号、90～106頁。
- (3) 「第4章 軍事支配(2) 日中戦争・太平洋戦争期」、浅田喬二・小林英夫編『日本帝国主義の満州支配』(時潮社、1986年)163～251頁。
- (4) 「日本ファシズムにおける打撃的軍事力の建設—日本海軍内の航空主兵論と海軍航空兵力の形成—」、東京都立大学『人文学報』第185号、1986年3月、39～73頁。
- (5) 「沖縄戦の軍事史的位罫」、藤原彰編『沖縄戦と天皇制』(立風書房、1987年)93～133頁。
- (6) 「日本ファシズムにおける打撃的軍事力建設の挫折—日本海軍航空兵力の特徴およびその崩壊の軍事的要因—」、東京都立大学『人文学報』第199号、1988年3月発行、135～159頁。
- (7) 「東郷平八郎の虚像と実像」、『歴史評論』第469号、1989年5月号、10～21頁。
- (8) 「太平洋戦争は偶然に敗けたのか」、栗屋憲太郎編『日本近代史の虚像と実像』第3巻(大月書店、1989年)245～264頁。
- (9) 「昭和天皇の戦争指導—太平洋戦争中の統帥部による上奏と天皇の「御下問」の検討—」、東京都立大学『人文学報』第216号、1990年3月発行、1～83頁。
- (10) 「日露戦争とは世界的にどんな戦争であったか」、佐々木隆爾編『争点・日本の歴史』第6巻(新人物往来社、1991年)89～99頁。
- (11) 「アジア太平洋戦争の開戦と昭和天皇—研究の課題と展望—」、東京学芸大学史学会編『史海』第39号、1992年6月、1～13頁。
- (12) 「日本の敗戦と大本営命令」、駿台史学会編『駿台史学』第94号、1995年3月、132～168頁。
- (13) 「本土決戦体制への道」、歴史教育者協議会編『幻ではなかった本土決戦』(高文研、1995年)12～46頁。
- (14) 「現代における〈戦争責任〉問題—天皇の〈戦争責任〉論を中心に—、『歴史評論』第545号、1995年9月号、17～29頁。
- (15) “The Emperor Showa as Supreme Commander (Dai Gensui) of the Japanese Forces” (1945: Consequences and sequels of the Second World War, *Bulletin of the International Committee for the history of the Second World War*, 1995)pp.107-114.
- (16) 「現代における軍事史研究の課題—日本近現代の事例を中心に—」、東京学芸大学史学会編『史海』第42号、1996年6月、11～19頁。
- (17) 「日本軍の捕虜観—捕虜否定思想の形成と展開—」、藤原彰・姫田光義編『日中戦争下中国における日本人の反戦活動』(青木書店、1999年)23～32頁。

- (18) 「満州事変と昭和天皇」、駿台史学会編『駿台史学』第108号、1999年12月、61～73頁。
- (19) 「歴史教育と歴史認識—大学生の戦争認識—」、『中央公論』2000年9月号、258～265頁。
- (20) 「国家総力戦段階の軍備拡張競争—建艦競争を中心に—」、『歴史評論』第610号、2001年2月号、18～32頁。
- (21) 「日本軍の航空特攻作戦とは何であったのか」、歴史教育者協議会編『歴史地理教育』第653号、2003年4月号、80～83頁。
- (22) 「現代における〈軍事力編成〉と戦争形態の変化」、渡辺治・後藤道夫編『講座・現代と戦争』第1巻〈「新しい戦争」の時代と日本〉(大月書店、2003年)251～291頁。
- (23) 「近代日本における〈軍事力編成〉と工業技術」、大日方純夫・山田朗編『講座 現代と戦争』第3巻(大月書店、2004年)247～278頁。
- (24) 「進展する戦争国家への道と平和憲法—日本の軍事力のゆくえ—」、北海道経済研究所編『北海道経済』第460号、2004年7月号、7～27頁。
- (25) 「現代日本の軍事戦略と兵器体系—海上自衛隊〈16DDH〉建造の目的を問う—」、戦略研究学会編『年報 戦略研究』第2号、2005年1月、27～37頁。
- (26) 「現代日本における女性兵士=女性自衛官」、早川紀代編『戦争・暴力と女性3 植民地と戦争責任』(吉川弘文館、2005年)194～205頁。
- (27) 「第二次世界大戦における日本の軍事的地位」、歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』第9巻〈近代の転換〉(東京大学出版会、2005年)299～321頁。
- (28) 「平和主義の堅持か、戦争国家への道か—日本の軍事力の危険な現状とその克服への道—」、大阪歴史科学協議会編『歴史科学』第181号、2005年8月号、15～26頁。
- (29) 「近現代天皇制・天皇研究の方法試論—〈大元帥〉と〈立憲君主〉の二項対立克服のために—」、東京歴史科学研究会『人民の歴史学』第165号、2005年9月、13～22頁。
- (30) 「兵士たちの日中戦争」、『岩波講座 アジア・太平洋戦争』第5巻〈戦場の諸相〉(岩波書店、2006年)33～58頁。
- (31) 「昭和天皇と軍事情報—大本営による戦況把握と戦況上奏—」、『駿台史学』第127号、2006年3月、1～21頁。
- (32) 「近代日本の戦争を支えたハード・システム・ソフト」、山田朗編『【もの】から見る日本史 戦争Ⅱ—近代戦争の兵器と思想動員—』(青木書店、2006年)9～33頁。
- (33) 「〈武器輸出三原則〉の問題点」、明治大学軍縮平和研究所『季刊・軍縮地球市民』第4号(西田書店、2006年4月刊)100～103頁。